

都庁舎サービスロボット実証実験の意義

(ホストシティTokyoプロジェクト)

○ 実証実験として多言語案内サービスロボットを都庁舎に設置

- ・ 先端技術の社会実装前には、現場での検証・確認が不可欠
- ・ 外国人旅行者増加に鑑み、多言語ロボットの
実証の場として都庁舎を提供

2020年、東京をICTのショーケースに

実験ロボット一覧

・ 公募・選定（5機）

名称	EMIEW3 (エミュー3)	Libra (リブラ)	RoboPin (ロボピン)	Sota (ソータ)	ZUKKU (ズック)
外観					
事業者	(株) 日立製作所	(地独) 東京都立 産業技術 研究センター	富士通(株)	NTT東日本(株)	(株) ハタプロ
対応言語	日/英	日/英/中/韓	日/英	日/英/中	日/英/中

スケジュールなど

○ お披露目イベント

日時 11月9日（木）15時20分～15時30分

場所 都庁第一本庁舎2階

○ 実証実験

日時 平成29年11月13日（月）～平成30年2月末

場所 都庁第一本庁舎2階・南側展望室

内容 対話形式で、東京の観光案内又は都庁舎案内